横浜市立茅ケ崎台小学校　令和５年度版　学校評価報告書（抜粋）　（令和４年度－６年度）

学校教育目標

「かしこく　やさしい　元気な子　ひかり輝く　茅ケ崎台」
○基礎基本を身に付け，自ら問題を発見し，意欲的に学び続ける力を育てます。(知)
○善いこと，悪いことをきちんと判断し，自分や相手を大切にする態度を育てます。(徳)
○規則正しい生活習慣を身に付け，心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体)
○自分らしい夢や目標をもち，自ら考え行動する態度を育てます。(公)
○自他の違いを受け止めながら，人とのコミュニケーションを通して，ともに生きていく力を育てます。（開）

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
＜言語能力＞ ＜心身ともにたくましく生きる力＞ ＜問題発見・解決能力＞

茅ケ崎中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「９年間で育てる子ども像」と具体的取組
茅ケ崎中学校 茅ケ崎小学校 茅ケ崎東小学校	○主体的に学習し、伝え合いながら学びを深める子ども（コミュニケーション力） ○協働的に解決策を見出し、実行する子ども（問題発見・解決能力） ○地域と自らかかわり、支えあう子ども（社会生活との関わり） ＜実施した取組＞ ・小中一貫推進協議会・授業参観（４・５・６・１２・２月） ・中学生と小学生の交流（１０月、２月）

中期取組目標振り返り

○かしこく　やさしい　元気な子　の育成を目指して、豊かにかかわり、心をつなぐ学校にします。
・共同で教材・授業研究に取り組み、主体的に問題を解決し、互いに学び合おうとする子どもを目指し、授業づくりを進めました。研究を通して、児童が自ら課題を立てたり、解決のために話し合いながら活動を進めたりする力が育ってきました。
・生活科や総合的な学習の時間の材の開発、ちがはたくんの活動、周年行事を通して、地域や関係機関との連携をさらに広げ、学びを深めました。
・たてわり活動を通して、異学年交流が深まりました。たてわり遊びや全校遠足で、コミュニケーション力を育て、児童の思いやりや協力し合う姿が見られました。
・学校生活アンケートを生かし、様々な児童の思いを理解し対応するよう努めました。いじめの早期発見、解決に向け、連携して取り組みました。

重点取組分野	自己評価結果
知　学習指導	①-１茅ケ台学習ルールを基本として指導をしているため、落ち着いた学習環境ができています。学校生活アンケートの際に、茅ケ台学習ルールが守れているか児童自身がふりかえる場があるのが有効的でした。 ①-２iPad の使い方に関しては、基本となる「学習のために使うこと」「人を傷つける使い方はしない」に対して意識に差があり、そのために、使い方が曖昧になっている部分がありました。 ②「協同的な学びを通して互いの考えを伝え合う力を育む」を研究テーマとし、国語科・算数科の教科で１年間、３つの項目（手立て）を中心に取り組みました。１年目ということもあり、テーマに迫る力を育むまでには、至っておらず今後の取組を継続していく事が大切です。
徳　特別活動	①各学年に役割があるなど、異学年交流が充実したものになっていました。また、たてわり遊びの時間が確保され、活動回数が多いこともよかったです。 ②たてわり活動の効果もあり、下学年を思いやったり上学年にあこがれをもったりする姿が見られました。
体　健康教育	①４年生と５年生の保健では、養護教諭と担任が授業に関わりました。振り返りワークシートから、自分事として捉えることができている様子が見られました。 ②保健だよりや必要書類の提出を通じて、家庭と必要な情報をやりとりすることができました。 ③食育タイムは、職員や児童には浸透し、家庭科の授業ではすぐに栄養素の話がでてくるなどの成果がでていました。 ④ちがはたくんでの活動では、１・２年生・あおぞら級はさつまいも、３年生は大根の苗植えや収穫体験を行いました。
公開　地域学校協働活動	①学習ボランティア：１年生、４年生に入ってもらいました。１年生の４、５月は、環境の変化に対する配慮があり、児童の安心感へつながっていました。４年生では、児童の学習態度の落ち着きにつながっています。 ②図書ボランティア：児童の本への興味関心が高まっていました。朝ではない他の時

	間に移動できないかという意見が出ました。 ③茅ヶ崎台人材バンク：総合や修学旅行などで関わりがありました。必要な時に必要な方に塚がることができました。
いじめへの対応	①毎月の生活アンケートの活用や児童からの丁寧な聞き取りを行なったことで、いじめの早期発見、丁寧な解決につながりました。 ②いじめ防止研修を行い、教職員の意識を高めたことで、早期にいじめ防止対策委員会を開くことができるようになり、いじめの早期発見、再発防止、未然防止につながりました。
人材育成・ 組織運営 （働き方）	①メンター研では、若い職員が多かったため、気軽に困りごとや聞きたいことを話し合うことができました。職員の現状やニーズに合わせた活動ができました。②午前５時間授業の実施により、放課後の時間を確保することができるようになりました。働き方改革を推進する事で、学び合いや相談の場と時間を保証することができました。 ③高めたいスキルを自ら選択して参加するシステムを構築することができました。参加者を増やすための手立てを考えることが今後の課題です。
情報教育	①ICT を効果的に活用した学習方法をワークショップ形式で共有しました。一人一人がもっているノウハウや考え方を共有できる研修を設定しました。②教職員で情報共有を図り、使用頻度が増やすためにロイロノートだけでなく、デジタルドリルやYomokka!!、Canva、タイピングなど活用できるアプリを全校に広めました。③持ち帰りについてメリットとデメリットをまとめ効果的な活用について考えました。
児童指導	①学校生活スタンダードのずれを確認し、全体共有を行いました。曖昧になったルールもあり、年度始めでの徹底の必要性を感じました。 ②YP 研修を行ったことで、YP の活用の仕方を共有することができました。年２回以上のアセスメント、プログラムも行い、学級経営に生かすことができました。
特別支援教育	①ユニバーサルデザインを意識した授業作りや教室環境の見直しを行いましたが、成果が出るまでには至らなかったです。 ②特別支援教室の環境や設備を整えたことで、子どもたちが安心して活用できる場となりました。理由によって使用教室を分けたり、職員体制を手厚くできるとより効果的な使い方ができるとかんがえています。
道徳教育 人権教育	①人権について意識しながら道徳の授業に取り組みました。また人権週間に向け、学年に応じたプログラムを選んで活動し、計画的に行えました。 ②道徳推進教師を中心に、資料の共有などを通して道徳教育の充実を図りました。 ③職員の道徳意識、人権意識を高めるためにも研修に取り組みました。